

## 栄養スクリーニング

記入者指名

作成年月日

氏名	(ふりがな)	□男	障害支援区分	□1 □2 □3 □4 □5 □6 □その他( )
		□女	併存症	□糖尿病 □腎疾患
生年月日	□大正 □昭和 □平成	□脂質異常症 □高血圧		
	年月日	□その他( )		
主障害	□知的障害 □身体障害 □精神障害 □難病	特記事項		
主障害の原因疾患	□ダウントレーナー症候群 □脳性まひ □てんかん □頸椎損傷 □脳血管疾患 □その他( )			

実施日	年月日(記入者名)	年月日(記入者名)	年月日(記入者名)	年月日(記入者名)
身長(cm)※1	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
体重(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)
BMI(kg/m <sup>2</sup> )※1 3.5g/dl未満	□無 □有( kg/m <sup>2</sup> )			
直近1~6か月間における3%以上の体重変化	□無 □有( kg/か月)	□無 □有( kg/か月)	□無 □有( kg/か月)	□無 □有( kg/か月)
直近6か月間における2~3kg以上の体重減少	□無 □有( kg/6か月)	□無 □有( kg/6か月)	□無 □有( kg/6か月)	□無 □有( kg/6か月)
血清アルブミン値(g/dl)※2 3.5g/dl未満	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)
食事摂取量75%以下※3	□無 □有( %)	□無 □有( %)	□無 □有( %)	□無 □有( %)
特記事項 (医師、管理栄養士等への連携の必要性等)				

※1 身長が測定できない場合は、空欄でも差し支えない。

※2 確認できない場合は、空欄でも差し支えない。

※3 管理栄養士・栄養士がない事業所の場合は、参考値とする。

## &lt;参考&gt; 栄養状態のリスク分類について

リスク分類		低リスク	中リスク	高リスク
BMI	知的障害	19~26未満	やせ 15~19未満	やせ 15未満
			肥満 26~30未満	肥満 30以上
	身体障害	16~24.5未満	やせ 11.5~16未満	やせ 11.5未満
			肥満 24.5~28.5未満	肥満 28.5以上
体重変化率		変化なし (増減:3%未満)	1か月に3~5%未満 3か月に3~7.5%未満 6か月に3~10%未満	1か月に5%以上 3か月に7.5%以上 6か月に10%以上
血清アルブミン値	3.6g/dl以上	3.0~3.5g/dl	3.0g/dl未満	
食事摂取量	76~100%	75%以下		
栄養補給法		経腸栄養 静脈栄養		
褥瘡				褥瘡

※大和田浩子、中山健夫：知的障害者（児）・身体障害者（児）における健康・栄養状態における横断的研究-多施設共同研究-、厚生労働科学研究所補助金「障害者の健康状態・栄養状態の把握と効果的な支援に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書、2008.p167-174から算出。

## 栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリング（様式例）

記入者氏名		(ふりがな)		口男	障害支援区分	□1 □2 □3 □4 □5 □6 □その他( )
氏名				口女	併存症	□ 糖尿病 □ 腎疾患 □ 脂質異常症 □ 高血圧 □ その他( )
生年月日		□大正 □昭和 □平成 年 月 日				
主障害		□知的障害 □身体障害 □精神障害 □難病				
主障害の原因疾患		□ダウント候群 □脳性まひ □てんかん □頸椎損傷 □脳血管疾患 □その他( )		特記事項		
身体状況、栄養・食事に関する意向				家族構成と キーパーソン (支援者)	本人 -	

(以下は、利用者個々の状態に応じて作成。)

実施日（記入者名）		年 月 日( )			
プロセス		( ) <sup>1)</sup>	( ) <sup>1)</sup>	( ) <sup>1)</sup>	( ) <sup>1)</sup>
栄養状態のリスクレベル		□低 □中 □高	□低 □中 □高	□低 □中 □高	□低 □中 □高
栄養状態のリスク（状況）	身長	cm	cm	cm	cm
	体重	kg	kg	kg	kg
	BMI	kg/m <sup>2</sup>	kg/m <sup>2</sup>	kg/m <sup>2</sup>	kg/m <sup>2</sup>
	体重変化率（%）	か月に % □増 □減			
	血清アルブミン値（g/dl） <sup>2)</sup>	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)	□無 □有( g/dl)
	褐色	□無 □有	□無 □有	□無 □有	□無 □有
	口高	□高	□高	□高	□高
	栄養補給法	□経腸栄養法 □静脈栄養法	□経腸栄養法 □静脈栄養法	□経腸栄養法 □静脈栄養法	□経腸栄養法 □静脈栄養法
	その他	□低 □中 □高	□低 □中 □高	□低 □中 □高	□低 □中 □高
	栄養補給の状態	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良
主食の摂取量（割合）	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	
主菜の摂取量（割合）	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	
副菜の摂取量（割合）	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	
その他（補助食品など）	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	% □良 □不良	
必要栄養量：エネルギー・たんぱく質	kcal g	kcal g	kcal g	kcal g	
食生活状況等	嚥下調整食の必要性	□無 □有	□無 □有	□無 □有	□無 □有
	食事の形態（コード） <sup>3)</sup>	(コード： )	(コード： )	(コード： )	(コード： )
	とろみ	□薄い □中間 □濃い	□薄い □中間 □濃い	□薄い □中間 □濃い	□薄い □中間 □濃い
	食事の留意事項の有無（療養食の指示、食事形態嗜好、薬剤影響食品、アレルギーなど）	□無 □有	□無 □有	□無 □有	□無 □有
	その他（食習慣、生活習慣、食行動などの留意事項など）				
多職種による栄養ケアの課題	その他の低栄養・過栄養関連問題 <sup>4)</sup>	□無 □有	□無 □有	□無 □有	□無 □有
		□過食 □拒食 □偏食 □早食い・丸呑み □異食 □盗食 □隠れ食い □開口・閉口障害 □食べこぼし □嚥嚥 □口腔及び摂食・嚥下 □嘔気・嘔吐 □下痢・便秘 □浮腫 □脱水 □感染・発熱 □経腸・静脈栄養 □生活機能の低下 □医薬品 □その他	□過食 □拒食 □偏食 □早食い・丸呑み □異食 □盗食 □隠れ食い □開口・閉口障害 □食べこぼし □嚥嚥 □口腔及び摂食・嚥下 □嘔気・嘔吐 □下痢・便秘 □浮腫 □脱水 □感染・発熱 □経腸・静脈栄養 □生活機能の低下 □医薬品 □その他	□過食 □拒食 □偏食 □早食い・丸呑み □異食 □盗食 □隠れ食い □開口・閉口障害 □食べこぼし □嚥嚥 □口腔及び摂食・嚥下 □嘔気・嘔吐 □下痢・便秘 □浮腫 □脱水 □感染・発熱 □経腸・静脈栄養 □生活機能の低下 □医薬品 □その他	□過食 □拒食 □偏食 □早食い・丸呑み □異食 □盗食 □隠れ食い □開口・閉口障害 □食べこぼし □嚥嚥 □口腔及び摂食・嚥下 □嘔気・嘔吐 □下痢・便秘 □浮腫 □脱水 □感染・発熱 □経腸・静脈栄養 □生活機能の低下 □医薬品 □その他
特記事項					
課題	① 身体計測等	□無 □有 ( )			
	② 食生活状況等	□無 □有 ( )			
	③ 食行動	□無 □有 ( )			
	④ 身体症状	□無 □有 ( )			
	⑤ その他	□無 □有 ( )			
総合評価		□改善 □改善傾向 □維持 □改善が認められない	□改善 □改善傾向 □維持 □改善が認められない	□改善 □改善傾向 □維持 □改善が認められない	□改善 □改善傾向 □維持 □改善が認められない
サービス継続の必要性（注）栄養改善加算算定の場合		□無 □有	□無 □有	□無 □有	□無 □有

<参考> GLIM基準による評価 ※医療機関から情報提供があった場合に記入する。	□低栄養非該当 □低栄養（口中等度 口重複）	□低栄養非該当 □低栄養（口中等度 口重複）	□低栄養非該当 □低栄養（口中等度 口重複）	□低栄養非該当 □低栄養（口中等度 口重複）
---	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

1) 必要に応じてプロセス（スクリーニング／アセスメント／モニタリング）を記入。

2) 検査値が分かる場合に記入。

3) 嚥下調整食が必要な場合は、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食コード分類を記入。

4) 課題があれば「有」にチェックし、具体的な内容にもチェック。

※ 利用者の状態及び家族等の状況により、確認できない場合は空欄でもかまわない。

### <低栄養状態のリスクの判断>

全ての項目が低リスクに該当する場合には、「低リスク」と判断する。高リスクにひとつでも該当する項目があれば「高リスク」と判断する。それ以外の場合は「中リスク」と判断する。

BMI、食事摂取量、栄養補給法については、その程度や個々人の状態等により、低栄養状態のリスクは異なることが考えられるため、対象者個々の程度や状態等に応じて判断し、「高リスク」と判断される場合もある。

リスク分類		低リスク	中リスク	高リスク		
BMI	知的障害	19~26未満	やせ 15~19未満	やせ 15未満		
	肥満 26~30未満		肥満 30以上			
	身体障害	16~24.5未満	やせ 11.5~16未満	やせ 11.5未満		
			肥満 24.5~28.5未満	肥満 28.5以上		
体重変化率		変化なし (増減: 3%未満)	1か月に3~5%未満	1か月に5%以上		
			3か月に3~7.5%未満	3か月に7.5%以上		
			6か月に3~10%未満	6か月に10%以上		
血清アルブミン値	3.6g/dl以上	3.0~3.5g/dl	3.0g/dl未満			
食事摂取量	76~100%	75%以下				
栄養補給法		経腸栄養 静脈栄養				
褥瘡				褥瘡		

\*\*\*大和田浩子、中山健夫：知的障害者（児）・身体障害者（児）における健康・栄養状態における横断的研究-多施設共同研究-、厚生労働科学研究所補助金「障害者の健康状態・栄養状態の把握と効果的な支援に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書、2008. p167-174から算出。

## 栄養ケア計画書 (様式例)

## 別紙3

氏名	殿	入所日	年 月 日
作成者		初回作成日	年 月 日
利用者 または 家族の意向		作成(変更)日	年 月 日
		説明と同意日	年 月 日
解決すべき課題 (ニーズ)	栄養状態のリスク ( <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 )		サイン
長期目標と期間			

短期目標と期間	栄養ケアの具体的内容	担当者	頻度	期間
① 栄養補 給・食 事				
② 栄養相 談				
③ 多職種に による栄養 ケア等				
特記事項				

## 栄養ケア提供経過記録